

生計費除除あるもの	二二戸
餘額金額合計(月當り)	二四五・八七〇
生計費不足するもの	七一戸
不足金額合計	八六、四九〇
一收入相當するもの	一五戸
一戸當り平均生活費	右百八戸(家族数合計四六九人)の家賃、食糧費、雜費等の生計費を平均すれば次の如き結果が現はれて居ります
一戸當り平均生計費(家族四人三分強)	八、九五〇
一家賃	三、八九〇
食糧費	二、四四三
雑費	六八、九三三
合計	五四、〇〇一
郵場平均月収	四、九三三
差引不足高	一、〇六七

右に依れば家賃は最高二十二圓最低四圓にして平均は八圓五十五錢であります。食糧費は一人當り僅に九圓五錢、雜費は同上僅かに五圓弱を費して居るに過ぎません。大正三年に内務省衛生局が發表せる日本國民保健食料を、大正十一年の物價を以て換算すれば少なくとも一人一日六十錢、ヶ月十八圓の食料費を要します。之を婦人小兒等の割合小量なる者を加減して計算するも一家四人三分の家族ありとすれば少なからず、ヶ月六十圓以上の食糧費を要する事明白であります。

然るに現在我々陶器工が費しつつある食糧費は僅にその半額強に過ぎないであります。雜費といへどもその中に子女の教育費、町内の交際費、諸税金等を包括するものなる事を思へば、如何に我々の現在の生活が質素を極めたるものであるかは何人にも想像に難く、而も我々は斯の如き質素なる生活を營む爲にも、尙約三割の收入不足に苦しみつゝある

此の事實を見ても、如何に我々の現在の賃銀が安き、過ぎるかは明白な事があります。我々は今や斯の如き嚴然たる事實に當面して何等かの根本的改善を講ずるに必死の努力を拂はんとするものであります。願は大方の諸賢の御指導と御援助とを與へられ、事を切に希望するものであります。大正十二年 月

### 陶器工諸君に急告す

諸君我等の生活は今や破滅の淵に臨んで居る、賃銀の底知らぬ底落は今や我等の職業を絶滅せしめ我等の妻子を餓死せしめんとして居る、作業系統の大改新と賃銀の値上げは刻下の急務である。我等は必死の決心を以て大正十二年の劈頭に此大事業を遂行せん事を決心した、陶器組合員たるご否ごを問はず同憂同志の諸工諸君は來りて共に起て!!

大 會 順 序

- 一 勞働生計調査報告
- 二 陶器工協同會
- 三 陶器組合顧問 荒谷宗治君

# 勞働生計調査報告

## 名古屋陶器組合

### 一 調査の目的

我が一般陶業界が一昨大正十年以來貿易不振の爲に、事業全般漸次不況の度を甚しくすると共に、我々陶器工の賃銀も急激に低落して、昨大正十一年の春夏の頃に至りては生活の逼迫漸くその極度に達し爲に多數の同職者は己むを得ず多年習熟せる生業を擲つて他に新たなる生活の道を求むるに至り、辛ふじて其職に止まる者も、生計の困苦窮乏營ふるものなく、或は家財を賣りて僅に生計の不足を補ひ、或は最愛の子女を以て學業に中道に廢して家業を手傳はしめ、或は多年苦心して養成せる徒弟を離散せしむる等途に回復すべからざる幾多の大打撃を受けつゝ、一意景氣の回復を希求しつゝ、忍苦經營今日に至つたのであります。

本組合は此苦況に際して、名古屋に於ける幾百陶器工間に於ける唯一の協同機關として、如何にもして此の悲運に遭遇しつゝある幾百同職者諸君の爲、聊かにても生活の安定を圖ると共に、多難なる陶器界全体の爲、一

早くも景氣の回復を來らしめ、幾百年の光榮ある歴史をもてる我が名古屋の陶器業の健全なる發達を資けんと希望し、組合役員を始める幾多の同志は屢次會合を催し、或は總會を開き、慘憺たる苦心焦慮を重ね來つたのであります。

然しながら今日の不況は、その原因主として世界大戰中及其直後に於ける過度の好況の必然的反映として來れるものにして、現在委微沈滞を極めつゝある全世界經濟界が何等かの安定を得て再び回復期に向ふにあらざれば到底區々たる人爲の策を以てしてはその根本的回復を望む事の出来ぬ、は明白な事實であります。が爲に、本組合の慘憺たる苦心も効なく遂に昨大正十一年中は何等の具体的方策をも實行する事を得なかつたのは、大勢已むを得ずと言ひながら實に遺憾堪へない次第であります。

然しながら人間の忍耐にも空限あるものであります。如何に不況時代に於て己むを得ずといへ、我々陶器工の現在の賃銀の如

きは餘りに安きに過ぎ、現在の如き物價に對しては到底人間としての必要の最少限度の生活を維持する事が出来ません。我々は現在の如き不況時に於て決して十分なる利益を得ん事を欲するものではなく、出來得る限り質素なる生活を以て忍耐し、一面作業上の最高効率を發揮して生産費の減少を圖、一日も速かに一陽來復の好況時代を迎へ、光榮ある歴史を有する斯業の健全なる發達に資せん事を期するものであります。が、而も尙生活の窮乏此の如く甚だしきに至つては幾多の家族と共に到底糊口の道なきを悲しまざるを得ないのであります。

而も我々が斯の如き苦境に呻吟しつゝある一面に於て、顧みれば我が陶器業の従々の生産系統は極度の混亂にして、其間尙先費の節約も待たず餘地ありと考へらるゝもの少なくあり。例せばその作業方法の如き工場通動あり下請制度あり諸工の自己作業あり。何等の統一的組織なく、其賃銀制度の如きも、日給あり時間給あり、請分制度あり而も個々の作業につき各人各個の量を爲すものにして其間何等の標準とすべきものなし、徒らに無制限なる自由競争といはれは、寧ろ混亂極まりなき混亂状態に放任せられざるが爲に、賃銀は實際必要以上、低劣せるに拘りず生産費の總和は必しも安値な